

# 平成30年度 第43回関東中学校軟式野球大会

茨城町立明光中学校(茨城) 対 東海大学付属浦安中学校(千葉)

小林投手好リリーフ！最大のピンチを凌ぎ、東海浦安二回戦へ！！



山日YBS球場	1回戦	第3試合	開始時刻	14:33	終了時刻	16:17	試合時間	94分					
チーム名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	特1	特2	特3	計
茨城町立明光中学校(茨城)	0	0	1	0	0	0	0						1
東海大学付属浦安中学校(千葉)	2	0	1	0	0	0	×						3

【審判】 球審：横山 佳正 一塁：五月女 広昭 二塁：田中 洋輔 三塁：根本 真  
 【投手-捕手】 茨城町立明光中学校(茨城) 投手-捕手：佐藤-東ヶ寄  
 東海大学付属浦安中学校(千葉) 投手-捕手：濱崎、小林-渋谷  
 【長打】 二塁打：西村(浦安)  
 三塁打：  
 本塁打：

<試合経過>序盤は、東海大浦安が主導権を握る。一回表2番永盛(明光)がセンターへ安打。その後二死1・2塁から走者がスタート、打者空振り、キャッチャー渋谷(浦安)は、落ち着いて三塁へ送球し無得点。一回裏二死ながら四球やワイルドピッチをからめ2・3塁、5番西村(浦安)がレフトオーバーの二塁打で2点を先制する。3回表、明光が反撃に転じる。無死一塁から1番戸田(明光)がレフト前安打。一死とされるも、3番大和(明光)がライト前に痛烈な安打。2塁走者平野(明光)が一気に本塁へ生還し1点を返し、なおも一死1・3塁。ここで東海浦安のベンチが動き、小林(浦安)がマウンドへ。後続を断ち最少失点で乗り切る。3回裏一死から3番小林(浦安)がレフト前安打で出塁、警戒されながらも盗塁を決める。4番鯉坂(浦安)は、深めの守備位置をとっていたレフトの前に落ちる安打。続く打者が四球を選び一死満塁。6番黒澤(浦安)は三塁線への安打で、1点を追加。ピッチャー佐藤(明光)も緩急をつけた投球で後続を断ち粘りをみせる。中盤は、互いに譲らず得点を与えないまま終盤へ。最終回まで小林(浦安)の球威は衰えることなく、明光の追撃を許さなかった。(敬称略)

打順	守備	選手	打席	打数	安打	打点	三振	四死球	犠打	盗塁
1	8	戸田 瑠偉	3	3	1	0	1	0	0	0
2	9	永盛 晴弥	2	2	1	0	1	0	0	0
	H・9	小川 琢磨	1	1	0	0	1	0	0	0
3	6	大和 健介	3	3	1	1	0	0	0	1
4	2	東ヶ寄 通弥	3	2	0	0	0	1	0	0
5	4	川崎 活希	3	3	0	0	0	0	0	0
7	1	佐藤 大	3	2	0	0	0	1	0	0
8	3	加茂川 猛一	3	3	0	0	2	0	0	0
9	7	平野 巧真	2	1	0	0	0	1	0	0
計			26	23	3	1	6	3	0	1



投手	回数	アウト	打者	球数	被安打	奪三振	四死球	失点
佐藤 大	6	18	28	81	5	2	3	3

**チームコメント**  
**東海大浦安中 江原監督**  
 紙一重の試合で、苦しい展開だった。「一生に一度の今日、のびのびと、楽しく、気合全開で」と選手に声をかけ、よく頑張ってくれた。次の試合も、何が何でも勝って全国大会に行きたい。

打順	守備	選手	打席	打数	安打	打点	三振	四死球	犠打	盗塁
1	3	梅末 颯太	4	4	1	0	0	0	0	0
2	1・9	濱崎 亮輔	3	2	0	0	0	0	1	1
3	6・1	小林 翔	3	2	1	0	0	1	0	1
4	8	鯉坂 賢弘	3	2	1	0	0	1	0	0
5	5	西村 風汰	3	2	1	2	0	1	0	0
6	4	黒澤 雅規	3	3	1	1	1	0	0	0
7	9・2	森 悠介	3	3	0	0	0	0	0	0
8	2・6	渋谷 洋充	3	3	0	0	1	0	0	0
9	7	大野 達希	3	2	0	0	0	0	1	0
計			28	23	5	3	2	3	2	2

**東海大浦安中 小林主将**  
 地区、県大会と苦しい試合が続く中で、バッティングに自信を持てた。全国大会へ行くために関東大会では、投手陣がふんばり、大量得点をあげ、打ち勝っていきたい。

投手	回数	アウト	打者	球数	被安打	奪三振	四死球	失点
濱崎 亮輔	2 1/3	7	12	58	3	2	3	1
小林 翔	4 2/3	14	12	61	0	4	0	0

**明光中 宮崎監督**  
 悔しいの一言に尽きる。負けたので反省しかない。個人の力にはチームで勝つと言ってやってきたが、勝機をつかめなかった。

